

平成28年度  
社会福祉法人 伊達コスモス21

# 事業報告書

社会福祉法人 伊達コスモス21

## 目 次

平成 28 年度重点運営事項総括	1
法人本部	2
ふみだす	4
コスモス	8
わくわく	8
てくてく 1 班	9
てくてく 2 班	9
第 2 ふみだす	11
おおぞら	15
そら	16
くりんくりん	16
こむぎ	17
給食提供サービス(ふみだす・第 2 ふみだす)	18
サポートじゃんぷ	20
サポートハンズころころ	24
どんぐりころころ	27
福祉有償運送	28
在宅高齢者・障がい者入浴支援	28
所持金管理	29

# 平成 28 年度 伊達コスモス 21 重点運営事項総括

## 1. 社会福祉法人制度改革に伴う具体的な対応

社会福祉法人制度改革に遵い、平成 28 年度は新定款の策定事務（H29. 1. 12 認可）及び役員の新たな機関設計に基づき評議員・理事の任命、評議員選任解任委員会の設置を行った。次年度は所謂「社会福祉法人制度改革元年」であり、制度改革の趣旨である①経営組織のガバナンスの強化、②事業運営の透明性の向上、③財務規律の強化、④地域における公益的な取組を実施する責務等を十分認識して法人運営を行っていくこととしたい。

## 2. ふみだす大規模増改修に備えた整備計画の作成

平成 30 年度に向けたふみだす建物の大規模増改修に係る準備については、購入予定地の境界確認や土地・建物の購入額の協議、基本設計に備えたゾーン分け等準備を進めてきたが相手方の都合により延期となってしまった。引き続き譲渡の時期・購入額について伊達市社会福祉協議会や伊達市と交渉していくこととする。

## 3. 給与規程改正による処遇改善の実施

平成 29 年度から改定される福祉・介護職員処遇改善加算を見据え①キャリアパス要件の見直し（職位・職責・職務内容に応じた任用要件と賃金体系を整備）、②新卒職員確保のための初任給の見直し、③管理職手当・役付手当の見直しを図った。

## 4. 発達障害のある利用者に対する環境整備（活動の場・住居）と支援スキルのアップ

重い自閉症のある利用者の日中活動の環境として、ふみだすの物品庫を改修し構造化を図った個室での支援を試行したうえで、ふみだす及び第 2 ふみだすを利用する重い自閉症の利用者 6 人の日中活動の場として「結」を新築整備するとともに、新規グループホームに自閉症の特性を勘案した 1LDK の住居を併設するなど、自閉症の日中活動の場と住まいの場の環境の充実に努めた。

また、職員を先駆的実践を行っている他法人に一定期間派遣したり、専門研修会に参加するなど、職員の自閉症の支援に関する専門的スキルアップに努めた。

## 5. 新規グループホームの開設と個人のニーズに応える生活形態の推進

グループホームの利用待機ニーズ、医的ケアの必要な利用者の短期入所ニーズ、重複障がいのある利用者の生活支援制度改変の兆しから新たな生活支援体制の構築ニーズ等に応えるため国庫補助を活用し新規にグループホーム「わたぼうし」を整備した。

また、個人生活を希望しているグループホーム利用者のため、平成 28 年度 2 ヶ所のサテライト型住居を賃借し個人生活の推進に取り組むことができた。

# 法人本部

## 1. 役員・監事

任期 第八期 平成27年9月28日～平成29年6月評議員会  
理事長 栗本 茂生  
常務理事 大垣 勲男  
理事 松倉 一男・下田 良夫・大矢 辰男・大坪 鐵雄・小林 繁市 以上7名  
※松倉 一男・下田 良夫・大坪 鐵雄・小林 繁市(平成29年3月31日 退任)

監事 栗橋 徳一  
岡部 由美 (平成29年3月18日 就任)  
中川 佳恵 (平成29年3月17日 退任) 以上2名

## 2. 評議員

任期 第八期 平成27年9月28日～平成29年3月31日  
石川 鐵雄・亀田まり子・杉山 慶夫・岡田 信・須藤 英雄  
奥村 貴広・栗橋 和夫・原 直樹・奥山 刊児・益田 利幸  
勝木 勉・松添 慎吾・堤 厚・畠山 隆子・高木 雅彦 以上15名

## 3. 評議員選任・解任委員

任期 第一期 平成29年3月18日～平成33年6月評議員会  
栗橋 徳一・岡部 由美・福士 憲昭・橋本 政人・齊藤りか子 以上5名

## 4. 役員会等の開催状況

### 【役員会】

第1回役員会：平成28年5月20日	議長 栗本理事長	署名人 大垣常務理事・下田理事
第2回役員会：平成28年9月29日	議長 大垣常務理事	署名人 松倉理事・小林理事
第3回役員会：平成28年12月20日	議長 栗本理事長	署名人 大垣常務理事・松倉理事
第4回役員会：平成29年2月24日	議長 小林理事	署名人 栗本理事長・大垣常務理事
第5回役員会：平成29年3月17日	議長 松倉理事	署名人 大矢理事・大坪理事

### 【評議員会】

第1回評議員会：平成28年5月18日	議長 杉山評議員	署名人 栗橋評議員・高木評議員
第2回評議員会：平成28年9月26日	議長 堤評議員	署名人 石川評議員・畠山評議員
第3回評議員会：平成28年12月14日	議長 松添評議員	署名人 須藤評議員・高木評議員
第4回評議員会：平成29年3月9日	議長 杉山評議員	署名人 栗橋評議員・益田評議員

## 5. 監事監査の実施状況

第1回監事監査：平成28年5月16日  
第2回監事監査：平成28年9月5日  
第3回監事監査：平成28年11月28日  
第4回監事監査：平成29年2月24日

## 6. 研修・行事等

平成28年4月1日 : 辞令交付式並びに新規利用者顔合せ会 (於:社会福祉協議会)  
平成28年5月22日 : 心をつなぐ労力奉仕(家族の会共催)  
平成28年5月24・26日 : 平成28年度 第1回新規採用職員研修 (於:ふみだす)  
平成28年6月8～25日 : 普通救命講習会 (於:西胆振消防組合消防本部)  
平成28年7月20日 : 第1回法人内職員勉強会 (伝達講習・講演 廣澤課長)  
平成28年8月31日 : 第2回法人内職員勉強会 (ふみだす・サポートハンズころころ)  
平成28年9月21日 : 第3回法人内職員勉強会 (サポートじゃんぷ・講演 大垣常務理事)  
平成28年9月25日 : 秋の果物狩り (家族の会共催) (於:壮瞥町浜田果樹園)  
平成28年10月12・13日 : 平成28年度 第2回新規採用職員研修 (於:ふみだす)

- 平成 28 年 10 月 15 日 : 第 1 回法人研修会「知的障害者と認知症」「罪を犯した知的障害者の現状と支援」  
聖学院大学 人間福祉学部 准教授 木下大生氏 (於:伊達社会福祉協議会)
- 平成 28 年 10 月 19 日 : 第 4 回法人内職員勉強会 (第 2 ふみだす・サポートじゃんぷ)
- 平成 28 年 11 月 16 日 : 第 5 回法人内職員勉強会 (第 2 ふみだす・サポートハンズこころ)
- 平成 28 年 12 月 21 日 : 第 6 回法人内職員勉強会 (第 2 ふみだす・サポートじゃんぷ)
- 平成 29 年 1 月 18 日 : 第 7 回法人内職員勉強会 (ふみだす・第 2 ふみだす)
- 平成 29 年 2 月 5 日 : 法人職員研究発表会 (於:社会福祉協議会)
- 平成 29 年 3 月 11 日 : 第 2 回法人研修会「発達障害のある方の日中活動について」  
(社福) 侑愛会 ワークセンターほくと 施設長 小黒康廣氏 (於:長和コミュニティセンター)
- 平成 29 年 3 月 15 日 : 第 8 回法人内職員勉強会 (ふみだす・じゃんぷ)

## 7. 職員研修

月 日	研 修 名 等	主 催	場 所	参 加 者
H28. 11. 25	平成 28 年度 経理担当者専門研修	北海道社会福祉協議会	札幌市	宍戸
H28. 12. 26	社会福祉法人制度改革に伴う事務説明会	北海道	札幌市	齊藤

## 8. 視察見学者数実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	0 (1)	3 (1)	2 (7)	12 (7)	7 (2)	7 (6)	6 (7)	3 (3)	2 (3)	3 (5)	2 (4)	6 (2)	53 (48)
人数	0 (5)	12 (28)	10 (31)	103 (69)	30 (4)	76 (33)	61 (119)	13 (10)	3 (60)	5 (96)	8 (32)	92 (28)	413 (515)

※カッコ内は平成 27 年度分

# ふみだす

## 1. 総括

平成 28 年度ふみだすでは、昨年度から引き続き個々の障がい状況や年齢、ニーズなどを考慮し、個別やグループでの活動を強化した。現在は生活介護班全体で個別やグループでの活動が行われ、利用者の希望や支援計画を実施しやすい状況となり、本人の意思表示が多く感じられるようになってきた。

コスモス班においては 35,200 円の目標工賃を上回る 37,275 円の支給実績となった。要因としては、昨年度大幅に減少した災害用備蓄ビスケットの受注量の増加が実績につながった。

また、平成 28 年度は発達障がい者への支援に力を入れた 1 年となった。活動室の構造化を図り個室での対応を行ったことや、各種研修会、短期入所を通してのコンサルテーションなど、より発達障がい者の支援を強化したことにより、不安定であった利用者が安心して活動できるようになり一定の成果を得ることができた。

平成 27 年度より開始した在宅利用者の休日の余暇活動も定期的実施しており、利用者、ご家族からも大変好評となっている。所属している活動班以外の利用者との交流や活動を重ねる毎に、互いに協力したり、気遣うなどの横のつながりが生まれ充実した取り組みとなっている。

また、平成 28 年度も知的障がい福祉協会の実施する「みんなアート展」に出展し、3 作品が入選を果たすことができた。

## 2. 平成 28 年度重点課題への取り組みと評価

平成 28 年度については以下の 4 つの重点課題について取り組みを行ってきた。各班ごとに取り組みを重ね、それぞれの課題に対して一定の成果が見られたと感じているが、今後も継続し実施していく必要がある。利用者支援においては、班ごとの集団活動の他に個々の障がい状況や、希望等にきめ細かく対応していくため、個別や小集団での活動や取り組みを強化していく必要があると感じている。平成 29 年度は各部署におけるリーダーの育成が急務であり、舵取り役が信念を持って方向性を示していけるようにしたい。

### (1) 合理的配慮への取り組み

ふみだすでは障害者差別解消法が施行される以前から、ひとりひとりの利用者が「何を求めているのか」「何を望んでいるのか」など言葉で十分に伝えることが難しい利用者の気持ちを察しながら、活動や作業で配慮できることを考え実施してきた。特に平成 28 年度は発達障がいのある利用者への環境の構造化、スケジュールやワークシステムを用いて活動の流れを伝え、理解に繋がるよう取り組んできた。発達障がい者への対応については、正しく理解し正しく支援ができるよう、職員の研修やリーダーの育成にも取り組み、平成 29 年度第 2 ふみだすが開設する自閉症者の活動棟での支援内容や対応などの基礎を築く事ができた。

### (2) グループ活動・個別活動の更なる充実

個別の対応やグループ活動の実施により、個々の希望する活動や叶えたい想いを具現化することへの取り組みを行ってきた。また、障がい特性や年齢に応じたグループ活動や趣味活動等の充実により、自らの役割や活躍できる機会があり、自己表現・自己決定・支援者とのコミュニケーションの共有の拡大を図ることができた。

### (3) 障がいの重い利用者の「働く」の充実

平成 27 年度より取り組んできた障がいの重い利用者の「働く」ことへの挑戦は、てくてく 1 班の利用者がコスモス班への実習を繰り返し行ってきた。本人の得意な事や興味があることを活かし作業ができるよう作業内容の検討、環境整備、職員の体制を整え実施した。

実施当初は生活介護の職員が同伴し体験を実施してきたが、現在はコスモス班の職員が受け入れを行えるようになってきた。体験している利用者も作業に慣れ、コスモス班の利用者との関係が築けるようになり、生活介護の職員が同伴しなくても活動が可能となった。現在はパン作りの一工程を任されるようになり、食事や身の回りの支援もコスモス班の職員が対応できるようになったため、平成 29 年 4 月から正式にコスモス班の利用者として月に 7 日間作業を行っていく事とする。

#### (4) 安定した工賃支給を目指す

平成 28 年度の月額平均工賃の実績は 37,275 円となった。目標としていた 35,200 円を上回り支給することができたが、災害用備蓄ビスケットの受注は不安定であり、今回支給した実績額は安定供給の結果ではない。以前からの課題にもあるように、ビスケットの受注製造が減少する中でも目標工賃の支給ができる運営こそが安定であり、今後もパン・スイーツ等の販売増や集客の拡大を図らなければならない。

### 3. 利用者の推移

単位：人

事業(定員 60 名)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	
生活介護 (定員 40 名)	現員	56	56	56	56	56	55	55	55	55	55	56	55	/	
	入所										1		1		
	退所						1						1		2
就労継続 B 型 (定員 20 名)	現員	25	25	25	25	25	25	24	24	24	24	24	24	/	
	入所														0
	退所							1							1
現員合計		81	81	81	81	81	80	79	79	79	79	80	79	/	

#### ○生活介護

退所：特別養護老人ホームに入所 1 名、他事業所へ入所 1 名（ふみだす 2 月入所、3 月退所）

#### ○就労継続 B 型

退所：長期入院のため 1 名

### 4. 利用者の年齢（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：人

事業	年齢	20 未満	20-29	30-39	40-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70 以上	合計
生活介護 (定員 40 名)	男	1	7	3	2	1	2	3	3	1	23
	女		8	4	2		2	4	8	4	32
就労継続 B 型 (定員 20 名)	男		5		2			1			8
	女	1	1	3	6	2	1	2			16
合計		2	21	10	12	3	5	10	11	5	79
(% )		2.5	26.6	12.7	15.2	3.8	6.3	12.7	13.9	6.3	100

### 5. 1 日あたりの利用状況

単位：人

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開所日		22	21	22	22	22	23	22	23	21	21	20	25	264
生活介護 ① 定員 20 名	月総 利用者数	515	475	536	539	507	520	512	501	462	442	486	583	6,078
	1 日平均 利用数	23.4	22.6	24.4	24.5	23.0	22.6	23.3	21.8	22.0	21.0	24.3	23.3	23.0
開所日		21	21	22	23	22	24	24	22	21	20	21	23	264
生活介護 ② 定員 20 名	月総 利用者数	497	481	536	506	494	529	498	511	480	457	483	555	6,027
	1 日平均 利用数	23.7	22.9	24.4	22.0	22.5	22.0	20.8	23.2	22.9	22.9	23.0	24.1	22.9
開所日		23	25	27	27	24	25	27	25	23	23	22	27	298
就労 継続 B 型 定員 20 名	月総 利用者数	478	508	511	478	487	496	509	491	461	418	451	516	5,804
	1 日平均 利用数	20.8	20.3	18.9	17.7	20.3	19.8	18.9	19.6	20.0	18.2	20.5	19.1	19.5

## 6. 避難訓練実施状況（自然災害時の訓練含む）

平成 28 年度ふみだすでは 4 回の避難訓練を実施した。火災による避難訓練（2 回）の他、地震による津波を想定し、太陽の園の高台へ全利用者、職員が避難する訓練、暴風雪により停電になったことを想定し、発電機を使用した通電訓練や簡易トイレの設置、飲料水等の必要物品の運搬などマニュアルにとらわれず、実際の災害を想定し臨機応変で機敏な対応ができるよう、毎回様々な状況を想定しながら実施した。

### (1) 第 1 回火災避難訓練

実施日時 平成 28 年 7 月 15 日（金）14：00～14：30

実施内容 ①消防設備機器取扱説明 ②避難訓練 ③通報訓練 ④消火訓練 ⑤スモークマシン使用

避難者 利用者：77 名 職員：44 名

避難に要した時間 第 1 避難場所への避難 6 分 10 秒

### (2) 第 1 回自然災害避難訓練（地震・津波）

実施日時 平成 28 年 10 月 17 日（月）14：00～14：50

実施内容 地震発生、津波警報が出たことを想定し避難場所（太陽の園）へ避難

避難者 利用者：57 名 職員：36 名

避難に要した時間 地震体感から第 1 避難場所まで 7 分 20 秒

第 1 避難場所から太陽の園まで 27 分 18 秒

### (3) 第 2 回火災避難訓練

実施日時 平成 28 年 12 月 21 日（水）14：00～14：20

実施内容 ①消防設備機器取扱説明 ②避難訓練 ③通報訓練 ④怪我人救助

避難者 利用者：68 名 職員：49 名

避難に要した時間 第 1 避難場所への避難 4 分 55 秒

### (4) 第 2 回自然災害避難訓練（ライフライン断線）

実施日時 平成 29 年 3 月 24 日（金）14:00～15:00

実施内容 暴風雪による停電、断水を想定した訓練

① 断水による飲料水、生活用水の運搬

② 発電機による通電訓練

③ 簡易トイレ設置

避難者 利用者：79 名 職員：54 名

避難に要した時間 停電から通電した時間 18 分

## 7. 健康診断・健康相談

利用者については年 1 回、協力医療機関である守谷内科医院にて健康診断を実施し、その他に年 1 回各班ごとに守谷院長に来所していただき健康相談を実施した。

職員については全員が年 1 回、聖ヶ丘病院にて健康診断を実施している。また、介助業務に当たっている職員については腰痛検査を実施した。

インフルエンザの予防接種については、旭町クリニックの廣瀬院長に来所していただき、ふみだすにて実施している。

## 8. 職員研修等

平成 28 年度ふみだすでは、特に知識や技術を高めることが急務であった自閉症利用者の対応を学ぶために、自閉症の専門研修や強度行動障がいの研修に多く参加した。権利擁護や虐待防止に関する研修会にも積極的に職員を派遣するとともに、伝達講習も実施している。また、研修に参加するだけでなく、ふみだすでの実践を外部に発信するために、日本知的障害福祉協会や北海道知的障がい福祉協会が主催する研修会で発表する機会も与えられ実施することができた。

月 日	研 修 名 等	主 催	場 所	参加者
H28. 5. 24～26	平成 28 年度伊達コスモス 21 新規採用職員研修	(社福)伊達コスモス 21	法人	新職員 9 名
H28. 6. 8・25	普通救命講習会	西胆振消防組合	伊達市	法人職員 62 名
H28. 6. 20～21	平成 28 年度北海道知的障がい関係支援員研修	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	黒田、田中
H28. 7. 26	平成 28 年度権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	望月、木須



月 日	研 修 名 等	主 催	場 所	参 加 者
H28. 7. 27～28	平成 28 年度北海道サービス管理責任者養成研修	北海道	札幌市	廣澤
H28. 8. 29～9. 2	自閉症支援のためのワークショップ 5 日間集中コース	発達障害者支援 センター あおいそら	函館市	篠原
H28. 9. 7～9	第 54 回全国知的障害福祉関係職員研究大会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	大垣、廣澤
H28. 9. 14～15	防火管理者資格取得講習会	北海道設備協会	伊達市	篠原
H28. 9. 23	平成 28 年度整備管理者選任前研修	北海道運輸局	室蘭市	佐藤
H28. 11. 10～11	第 30 回全日本自閉症支援者協会 函館大会	全日本自閉症支援者協会	函館市	廣澤、岩田
H28. 11. 18	平成 28 年度 栄養士専門研修	北海道社会福祉協議会	札幌市	田中
H28. 11. 30	加齢化支援研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	廣澤、岩田 山田
H28. 12. 2	権利擁護セミナー I	豊浦豊和会	伊達市	川上、鳴海 熊谷
H28. 12. 5～6	平成 28 年度日中活動支援部会 全国大会	日本知的障害者福祉協会	千葉市	大野
H29. 1. 24	食品表示セミナー	北海道	苫小牧市	吉田
H29. 2. 2	権利擁護セミナー II	豊浦豊和会	伊達市	三浦、篠原 川上、岩田 熊谷、吉田 佐藤
H29. 2. 20	平成 28 年度 全道施設長研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	大垣
H29. 2. 23	発達障害・行動障害の基礎と応用	(社福)後志報恩会	小樽市	篠原
H29. 2. 28～3. 5	(社福)侑愛会への職員研修	(社福)侑愛会	北斗市	篠原

## 9. 研修・実習生の受け入れ状況

年 月	実習者所属	人数
5 月	北海道ハイテクノロジー専門学校	1
7 月	北海道立室蘭養護学校	2
7 月	北海道立室蘭養護学校 (中学部)	4
8 月	拓殖大学北海道短期大学	1
8 月	北海道立伊達高等養護学校	3
9 月	北海道立伊達高等養護学校	2
10 月	北海道立室蘭養護学校	1
11 月	北海道立室蘭養護学校	1
11 月	壮瞥町立久保内中学校	1
12 月	北海道福祉教育専門学校	4
12 月	北海道立室蘭養護学校 (中学部)	1
平成 29 年 2 月	北海道福祉教育専門学校	1
合 計		22

## 10. 就労支援会計収支状況

単位：円

	就労継続 B	生活介護			ふみだす
	コスモス	わくわく	てくてく	生活介護合計	総合計
収 入	33,030,358	2,129,752	1,127,578	3,257,330	36,287,688
支 出	33,030,533	2,130,018	1,127,810	3,257,828	36,288,361
収支差額	△175	△266	△232	△498	△673
H28 年度平均工賃	37,275	6,608	2,608	4,497	
H27 年度平均工賃	35,120	5,230	2,617	4,083	

# コスモス

## 1. まとめ

平成 28 年度は月額支給工賃 35,200 円以上を目標に取り組んだ結果、37,275 円の支給実績となった。要因はお客様の視点に立ち、商品の回転や季節に合わせた商品開発を行うことで顧客の満足度を得たことや、災害備蓄ビスケットの受注量が予算よりも上回ったことが売り上げ増につながったことがあげられる。

発達障がい者への構造化を取り入れた支援の強化においては、本人の行動・言動を日々記録し分析しながら作業内容・作業環境を整備したことにより、本人にとって活動しやすい環境へと変わった。職員が問題意識を持って取り組み、統一した支援を実施しようと重点的かつ意欲的に取り組めた良い機会となった。

生活介護利用者の受入体制については、てくてく 1 班と共に取り組みを継続し、働くことの喜びとは何かを中心に考え作業や環境を勘案した。しかし、本人の気持ちを十分に汲み取り、その意思を活動内容に反映させたサービス提供には至らなかったと感じる。また、高齢利用者への環境配慮の充実については、老化に伴う体力低下の状況を把握し作業提供を行った。日々、身体機能の低下がみられるという実態像をふまえたうえで何が出来て何が出来ないかを記録することが重要であると認識した年度となった。

最後に、利用者個人が自己実現できるよう充実した班運営に着目するとともに、売り上げを向上するためには日々の中で収支状況や取り組み内容について常日頃から見直す着眼点を持つことを忘れずに取り組みたい。

## 2. 反省事項と課題

平成 29 年度より利用者数が 1 名増え 26 名となることから、より一層の工賃支給に対する取り組みの強化を図らなければならない。不安定な災害用備蓄ビスケットの受託事業をあてにした運営方針ではなく、店舗売上・掛売先の売上強化により目標工賃の達成ができるよう日々の収支に対し適正な分析や企画の立案から実施につなげなければならない。

平成 28 年度は、利用者への支援が充実したと自信を持って言えるような状況ではなかったことを認識し、職員一人一人の価値基準の違いから対応方法に差異が表れることなく、利用者個人にとってよい支援・配慮を日々職員同士が研鑽する必要がある。

# わくわく

## 1. まとめ

平成 28 年度は発達障がいがある利用者の支援として、自閉症・発達支援センターあおいそらのコンサルテーションを受け、環境の構造化やスケジュール、ワークシステム等の助言を受けながら支援を実施した 1 年であった。試行錯誤であった前年度とは違い、自分たちの支援の中で構築していった根拠を基にあおいそらとの連携を図りながら支援を進めていく事で、構造化した支援に繋げていく事ができた。

利用者個々の高齢化や疾病においては、日々の健康チェックや支援機関等との情報の共有化を密にし、状態の変化について連携を図りながら個々の状況を鑑みた活動内容や適宜の休息時間を設ける事により、負担なく楽しみながら過ごせる活動に繋げていった。

小グループ活動や個別の活動については、個々の活動したい内容を企画、実施する事で「やってみた事なかったけど、参加してみたら楽しかったからまたしてみたい」と思っただけのような活動の提供が出来た。

「みんなあーと展」においては、個人入賞の他に、小グループ毎での合同作品としてそれぞれが思い思いの模様を染め上げた藍染作品が入賞し、初のグループ入賞作品となった。

作業面では、作業室内での菓子箱組上げや、ふみだす館内清掃、箸の袋入れなどの他に、新しい菓子箱組み上げ作業として、中敷きの組み込みのある箱を取り入れ、主としては若年者を主体とした小グループの作業としての確立を図ることが出来た。また、近隣個人宅の清掃活動など、外に出て働く機会も多く取り入れた一年であった。社会参加の一環として取り組んでいる鹿島大町商店街の清掃活動では利用者の参加希望も多く、楽しく取り組まれている。

余暇活動においては四季折々の外出活動や個人の希望を叶えるリクエスト外出等を行い、気持ちの切り替えやリフレッシュに繋げている。また、日中活動内で近隣施設を利用し散策やバス等に乗りドライブなども行っている。その他、定期的にボランティア講師による音楽活動やストレッチ活動を実施している。

## 2. 反省事項と課題

発達障がいに対する支援が進みはじめてはいるが、専門的な分野に関わってくるため、携わる職員が限定されてしまった。また他事業所へ足を運び、日中の活動を見聞き出来る機会を多く持てていけば、知識

だけではなく発想力や応用力、支援の段階の組み立てを判断できる力を少しでも身に着けられていたのではと感じている。

平成 29 年度は新体制でスタートする予定となっているが、課題がこれから多く見えてくると思われるが、新しい班としての活動を確立していく為にも、利用者個々の活動や小グループでの活動が常である形を作り上げ、一人ひとりの満足や期待に繋がる支援や活動に繋げていく。

## てくてく 1 班

### 1. まとめ

平成 28 年度、てくてく 1 班は重度・重複障がい利用者 15 名で活動を行ってきた。小グループでの活動や個別活動では、個々のニーズに合わせた活動をより充実させ、他の方と協力して何かを成し遂げる喜びや達成感を得るための活動を実施することができた。また、個別支援計画にある課題に対し、担当職員を中心としながら協議し、実践することができた。個々の活動が充実することでコミュニケーションを図る機会が増え、さらに拡大していくことで新たな自己表現にも繋がり、活動も利用者が自ら決めて行うことで意欲を持って行うことができていた。

法人の重点課題として掲げていた「働く」については、平成 27 年度より取り組みが開始されたコスモス班での実習を就労支援継続 B 型の利用者として働く事ができるように具体的かつ計画的に行い、平成 29 年度 4 月からコスモス班の一員として働くこととなった。最初は月に 7 日間の実施とし、様子を見て日数の増を検討していく。

また、野菜の苗植えから販売までの一連の流れの中で、それぞれが役割を持ち畑作業に携わることで働くことの喜びを感じることもできた。

社会参加の一つとしては昨年同様ふれあい広場にてブースを借り、街の中で暮らしながら様々な場面で市民と関わっている様子を展示し、普段の生活を知っていただく機会となった。当日は物販、PR ブースに全員が立ち、自ら発信し活躍する場となった。

### 2. 反省事項と課題

重点目標については、達成できなかった部分が多く課題が残った。小グループや個別活動は定着しているが、より個人に適した活動内容を実施していく。

意欲を持ち、自己決定、自己表現、さらには社会参加に繋がる活動にする為、平成 29 年度は具体的な計画をたてて、チームとして目標に向かっていくことが課題となる。利用者一人一人が役割を持ち、意欲の持てる活動に繋げていく。

## てくてく 2 班

### 1. まとめ

平成 28 年度てくてく 2 班では主に高齢利用者を中心として、利用者 15 名で活動を行ってきた。知的障がいのある 61 歳から 78 歳までの 14 名の利用者と、33 歳で身体的障害がある利用者が 1 名所属となっている。高齢利用者に対する取り組みを開始してから 6 年が経過し、年々利用者の高齢化が顕著となっており、日々の支援に関しても介助や声かけ、見守りが必要な利用者が増えてきている。

また気力や体力の減退から終日活動を行う事が厳しく、退勤時間を早めて短時間の利用で退勤し送迎を行う利用者も数名いたのが現状であった。日中活動において利用者の体調の変化や、何かいつもとは違う異変等、常駐する看護師を主として利用者の健康面に留意しながら迅速に対応している。必要と思われる際には生活支援機関と連絡をとり、状況説明することで通院等の対処に至ることもあった。高齢知的障がいの利用者にとって、自らの疾病や体調の変化に気づくことは難しく、支援者側の気づきや利用者への問いかけにより病気等の発見につながり、健康的に活動が出来るように支援を行ってきた。

平成 28 年度の活動内容は自信の持てる活動として実施している制作活動や清掃の他、体を動かす活動、フェイシャルエステやネイルエステ、入浴などリラックス出来る活動、一人一人が役割を持ち仲間に感謝されたり、必要とされていることを実感していただけるよう取り組んできた。

また新規の取り組みとして、少人数でのんびりと活動を行う「いきいきサロン」や、てくてく 2 班以外の利用者・職員と交流が図れる「ゆったりカフェ」を実施し、カフェで提供する飲み物やお菓子作りを利用者が担当し、意欲を持って取り組み、活躍できる良い活動となった。また、外出活動として近隣をドライブしながらカフェに出向き、美味しいコーヒーとお菓子を頂きながら寛いだ時間を過ごすなどの企画も定期的実施してきた。

## 2. 反省事項と課題

利用者の高齢化が進む中、その都度状況に合わせて対応を行ってきたが、年々利用者の体力の減退や気力の衰えが顕著となっている。今後はさらに休憩スペースを確保し、体を休められるよう配慮していく。また、利用者の希望に合わせてゆっくりと活動できるように小グループや個別での活動ができる機会を多くしていきたい。

また、安全に介助が出来るよう職員のスキルアップに努めていく。てくてく2班では慢性疾患を抱えた利用者がほとんどを占め、加齢とともに疾病の悪化や症状の進行も見られ、ますます健康面・精神面の配慮が必要となってくる。日々利用者の小さな変化を見逃さず、きめ細やかな対応で利用者の日中活動を支えることが出来るよう取り組んでいきたい。

## 第2ふみだす

### 1. 総括

平成 28 年度の第 2 ふみだすは、利用者が働くことを通じて、楽しく、充実感を抱くことのできるよう支援を行ってきた。また、仕事以外にも楽しみがもて、日々の活動に意欲がもてるよう、昨年度同様に利用者と職員が共に考えた千歳空港の見学とショッピング、ノーザンホースパークで動物とのふれあい体験などのレクリエーションを企画し実施した。

就労移行支援事業は、例年目標としている定員の 50% の就職を達成させることができず、1 名のみの就職となった。

就労継続支援事業 B 型については、年度途中において昨年度並みの収益が見込まれないことが懸念されたため、利用者工賃の向上を目的に、諸経費の削減、出展販売、販路拡大を行ってきたが、昨年度の売り上げを 500 万円以上大きく下回る形となった。背景には、食品製造加工と青果袋詰め作業の受注量が大幅に減少したことが要因となっている。

利用者については、発達障がい者の増加が顕著に認められるため、作業提供と支援方法について検討し、試行錯誤を繰り返しながら、他の専門機関へ派遣し実習の実施、専門機関職員による具体的支援に関する助言を受け取り組んできた。その結果、一定度の成果はあったと考えているが、依然課題は残っており、利用者にとって安心感のある支援が行えるよう継続して専門機関の助言等を受けていきたい。

平成 29 年度は、就労移行支援事業を平成 28 年度末日をもって廃止し、新たに生活介護事業を開始する。就労移行支援事業を利用されていた利用者については、就労継続支援事業 B 型へ異動し、目標である企業就労を目指していく。これまで行ってきた就労支援を就労継続支援事業においても質を落とすことなく、利用者の目的の達成のために支援にあたりたい。

新たに開始する生活介護事業については、第 2 ふみだすの敷地内に別棟を建て、発達障がい者に特化した支援を展開していく。今後発達障がい者は増加していくことが推測されるため、より質の高い支援となるよう日々欠かすことなく研鑽をしていきたい。

### 2. 平成 28 年度重点課題への取り組みと評価

#### (1) 就労移行支援事業における就職率 50% 以上の維持と的確なアセスメントの実施

就労移行支援事業は、利用者延べ数が 5 名であり、定員 6 名のうち 1 名 (1.7%) が就職し、目標としていた 5 割を達成することができなかった。しかしこの 1 名については、就職後 2 ヶ月で離職に至ってしまった。また、他の 1 名については、有期限内に就職をさせることができず、就労継続支援事業 B 型への異動となった。この他、1 名については、就職後のアフターフォローを実施していたが、概ね定着が見込まれたため、年度途中で退所となり、現員は 3 名となっている。今年度においては、利用者の特性と的確なアセスメントを行えなかったことが、有期限内の就職を成しえなかったことと離職へ繋がったものと考えられる。

就労移行支援事業は今年度で廃止となるが、就職を目指すもしくは可能性のある利用者はいるため、これまで実施してきた取組みと課題点を踏まえ、利用者の自己実現のために支援を継続していきたい。

#### (2) B 型事業における重度・高齢障がい者への支援の充実

現在の B 型事業においては、発達障がい者と重度・高齢障がい者が増加しており、個々の特性に応じた支援内容について協議・検討してきた。特に、重度・高齢障がい者については、体力の減退、疲労等が顕著に認められる方が増加しており、作業内容の見直し、作業参加のあり方について、利用者本人との話し合いと生活支援機関との調整を行ってきた。具体的には、利用時間の縮小、休日・休憩時間を増やす等を実施してきた。利用者からは、疲れることが減った、作業ができるようになったと良好な回答を得ている。一方、就労継続支援事業については、工賃向上を目的とした事業でもあることから、工賃向上を図りながら心身に負担なく働ける環境を作っていくなくてはならず、作業種の見直しが早急に求められてもいる。また、働くことと余暇的な活動を混合させた B 型のあり方についても、次年度中に模索し、試行へと結びつけていきたい。

#### (3) 支援者の資質向上

発達障がい者及び高齢・重度障がい者の増加に伴い、北海道知的障がい者福祉協会、北海道社会就労センター等が主催する研修、北海道が主催する虐待防止に関する研修へ職員を派遣し、特定の職員に限らず、多くの職員が受講できるよう勤務を調整し実施してきた。また、受講後には、職員会議等で受講者による報告会を設け、研修内容の共有化を図ってきた。さらに、研修から学んだ内容について支援現場で実践に

活かせるものについては即取り入れ、日々行われる打合せと班会議などで検証を行ってまいりました。

次年度についても、ただ受講するだけの研修ではなく、受講者自身と他の職員が研鑽できる形で研修報告を継続させていき、支援の資質を高めていきたい。

### 3. 利用者の推移

単位：人

事業 (定員 40 名)	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
就労移行 (定員 6 名)	現員	4	4	3	3	4	3	4	4	4	3	3	3	2 3
	入所					1		1						
	退所			1			1				1			
就労継続 B 型 (定員 34 名)	現員	52	52	53	53	52	53	53	52	52	52	52	54	4 2
	入所			1			1						2	
	退所					1			1					
現員合計		56	56	56	56	56	56	57	56	56	55	55	57	

#### ○就労移行

退所：B 型事業への変更にともなう退所 1 名、就職後のアフターフォロー期間終了に伴う退所 2 名

入所：B 型事業からの事業変更にともなう入所 1 名

#### ○就労継続 B 型

退所：移行事業への事業変更に伴う退所 1 名・他 B 型事業所への異動にともなう退所 1 名

入所：移行事業からの事業変更にともなう入所 1 名・札幌からの転入による入所 1 名、

伊達高等養護学校卒業生の入所 2 名

### 4. 利用者の年齢(平成 29 年 3 月 31 日現在)

単位：人

事業	年齢	20 未満	20-29	30-39	40-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70 以上	合計
就労移行 (定員 6 名)	男	1	1	1							3
	女				1						1
就労継続 B 型 (定員 34 名)	男	3	6	3	9	7	4	6		1	39
	女		3		3	1	2	4			13
合計		4	10	4	13	8	6	10		1	56
(% )		7.1	17.9	7.1	23.2	14.3	10.7	17.9	0.0	1.8	100

### 5. 1 日あたりの利用状況

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	
開所日	30	30	30	30	29	30	28	30	30	29	27	30	353	
就労 移行 定員 6 名	月総 利用者数	54	52	43	39	42	38	50	61	59	57	60	603	
	1 日平均 利用者数	1.8	1.7	1.4	1.3	1.4	1.3	1.8	2.0	2.0	2.0	2.2	1.7	
開所日	30	30	30	30	29	30	28	30	30	29	27	30	353	
就労 継続 B 型 定員 34 名	月総 利用者数	883	849	1,011	986	903	968	932	915	860	806	878	997	10,988
	1 日平均 利用者数	29.4	28.3	33.7	32.9	31.1	32.3	33.3	30.5	28.7	27.8	30.3	33.2	31.1

### 6. 避難訓練実施状況(自然災害時の訓練含む)

平成 28 年度の火災による避難訓練は、前期と後期に分け 2 回実施した。訓練時は、出火場所と発生時間を不明であることを想定した臨場感ある訓練になるよう行っている。また、第 2 ふみだすの訓練には、だて湯ったり館も合同で実施している。この他、リサイクルプラザにおいても、施設管理をしている水 ing 株)と共に行っている。

さらに、自然災害(津波到来)を想定した自然災害時避難訓練を年 2 回ふみだすと合同で行い、1 回が地震と津波の想定、1 回がライフラインの断線による訓練を実施した。また、リサイクルプラザについて

も同様に避難を行い、連絡を取り合いながら安全に避難できたことの報告と、課題となることもなく無事に終えたことを確認し合っており、訓練の成果が出たものと考えている。

訓練終了後は、各班及び職員による反省会議を設け、緊急時の対処について万全な体制で取り組めるよう改善点の共有と確認を行っている。

しかしながら、訓練の難易度を高めていくことにより課題点も表出しているため、課題解決を図るとともに様々な想定内容の訓練を実施し万全を期していきたい。

**(1) 第1回 第2ふみだす火災避難訓練(第2ふみだす・てくてく2班合同)**

実施日時 平成28年8月3日(水)防災設備説明(13時15分～13時30分)

消火訓練・通報訓練(13時32分～14時05分)

実施内容 ①消防機器取り扱い説明 ②避難訓練 ③通報訓練 ④スモークマシン体験

立ち会い 伊達消防署員

避難者 利用者(33名)、職員(8名) 計41名 ※第2ふみだす参加者数

想定内容 出火場所不明の火災を想定した避難訓練

**(2) 第1回 リサイクルプラザ火災避難訓練(従たる事業所)**

実施日時 平成28年8月31日(水)(10時00分～10時30分)

実施内容 ①避難訓練 ②通報訓練

避難者 利用者(14名) 職員(2名) 作業員(5名) 計21名

想定内容 火災を想定した避難訓練

**(3) 第1回 自然災害避難訓練(ふみだす・第2ふみだす合同)**

実施日時 平成28年10月17日(月)(14時10分～14時45分)

実施内容 車輻への乗車と避難場所までの避難移動訓練

避難者 利用者(30名) 職員(10名) 計40名 ※第2ふみだす参加者数

避難場所 太陽の園旧本館横駐車場

想定内容 地震後の津波発生警報発令による避難

**(4) 第2回 第2ふみだす火災避難訓練(第2ふみだす・てくてく2班合同)**

実施日時 平成29年2月22日(水)(13時25分～13時32分)

実施内容 ①避難訓練 ②通報訓練

避難者 利用者(34名) 職員(12名) 計46名 ※第2ふみだす参加者数

想定内容 出火場所不明の火災を想定した避難訓練

**(5) 第2回 自然災害避難訓練(第2ふみだす)**

実施日時 平成29年3月24日(金)

実施内容 ①待機及び環境制約をされた中での訓練

避難者 利用者(24名) 職員(9名) 計33名

想定内容 暴風雪による水道及び電気の寸断

連絡方法 無線機使用

**(6) 第2回 リサイクルプラザ火災避難訓練(従たる事業所)**

実施日時 平成29年3月29日(水)(14時00分～14時10分)

実施内容 ①避難訓練 ②通報訓練

避難者 利用者(12名) 雇用作業員(5名) 職員(2名) 計19名

想定内容 火災を想定した避難訓練

## 7. 健康診断・健康相談

利用者・職員ともに年1回健康診断を実施した。また、各作業班1回協力医療機関である守谷内科医院の守谷先生に來所していただき、利用者の健康に関する相談を実施した。この他、送迎に関わる職員については腰痛検査を1回実施している。

## 8. 職員研修等

平成 28 年度の研修では、昨年度に引き続き、虐待と自閉症に関する内容について力を入れ実施してきた。北海道や北海道知的障がい福祉協会等が主催する各種研修への職員派遣、また、それらの研修に参加した職員からの内容報告等を職員会議等で行い資質向上を図った。

この他、法人内部研修に加え、事業所内研修も取り入れたとともに、職員会議や班会議等を利用し、支援のあり方に関する伝達や学習の機会を設けた。

月 日	研 修 名 等	主 催	場 所	参加者
H28. 6. 2～18	平成 28 年度北海道知的障がい関係支援員研修	北海道知的障がい福祉協会	札幌	吉田、山田
H28. 6. 22	普通救命講習会	第 2 ふみだす	伊達	14 名
H28. 7. 26	平成 28 年権利擁護セミナー	日本知的障害者福祉協会	札幌	松倉、牛坂
H28. 8. 29	『自閉症スペクトラムの特性と支援の基本』に関する研修	社会福祉法人侑愛会	函館	高木、毛利、松倉、原田（優）
H28. 9. 6～9	第 54 回全国知的障害福祉関係職員研究大会（北海道大会）	日本知的障害者福祉協会	札幌	高木
H28. 10. 4	平成 28 年度社会就労センター「看板商品、人気商品を作り出す研修会」	北海道知的障がい福祉協会	札幌	高木
H28. 10. 6～8	第 5 回全国生産活動・就労支援部会職員研修会・実行委員会	日本知的障害者福祉協会	福岡	高木
H28. 11. 10～11	第 30 回全日本自閉症支援者協会函館大会	全日本自閉症支援者協会	函館	高木、山田
H28. 11. 26	第 43 回北海道発達障がい支援セミナー	北海道社会福祉事業団太陽の園	伊達	高木、毛利、山田、松倉、牛坂
H28. 12. 2	権利擁護セミナー I 研修	社会福祉法人豊浦豊和会	伊達	毛利、山田、松倉、東山、梨木
H28. 12. 5	北海道知的障がい福祉協会就労支援部会専門研修会就労系事業「虐待のリスク」(第 2 弾)	北海道知的障がい福祉協会	札幌	高木、佐藤、石川、牛坂、細川
H28. 12. 13	平成 28 年度胆振日高障がい者雇用促進研修会	胆振日高障がい者就業・生活支援センターすて〜じ	登別	高木
H28. 12. 20～21	平成 28 年度北海道サービス管理責任者研修	北海道	札幌	毛利
H29. 1. 24	北海道食品製造業食品表示セミナー	北海道経済部食関連産業	苫小牧	牛坂
H29. 2. 15～16	平成 28 年度第 2 回相談支援従事者研修	北海道	登別	毛利
H29. 2. 20～21	北海道知的障がい福祉協会平成 28 年度全道施設長研修	北海道知的障がい福祉協会	札幌	高木
H29. 3. 2～3	平成 28 年度部会協議会	日本知的障害者福祉協会	東京	高木

## 9. 研修・実習生の受け入れ状況

実習生の受け入れについては、伊達高等養護学校を始めとした高等養護学校生の受け入れを行った。また、高等養護学校の 3 年生については、卒後の進路を考慮し、本人、家族、教員、第 2 ふみだす職員が共同で連絡を取り合いながらの実習を行った。

月 日	実習者所属	人数
8 月	伊達高等養護学校	1
9 月	伊達高等養護学校	1
10 月	伊達高等養護学校	2
11 月	久保内中学校	1
合 計		5



## 10. 就労支援会計収支状況

単位：円

	就労移行	就労継続 B 型				第 2 ふみだす
	おおぞら	そら	くりん くりん	こむぎ	B 型合計	総合計
収 入	1,674,816	8,916,725	8,196,608	11,450,692	28,564,025	30,238,841
支 出	1,674,817	9,517,134	8,988,220	11,758,678	30,264,032	31,938,849
収支差額	△1	△600,409	△791,612	△307,986	△1,700,007	△1,700,008
H28 年度平均工賃	19,192	47,113	26,226	27,900	32,386	
H27 年度平均工賃	38,033	51,847	26,555	29,162	35,017	

平成 28 年度の目標工賃は 35,500 円であったが、実平均工賃額は 32,386 円となった。就労継続支援事業 B 型については、受注量の大幅な減少が影響し、予定していた収益に至らなかった。そのため、利用者への工賃を大きく減少させたくないとの思いから、これまで積立をおこなってきた工賃積立金 170 万円全額を取り崩し、利用者へ還元を行ったため、表中の収支差額に△表示の記載となっている。

## おおぞら

### 1. まとめ

平成 28 年度の就労移行支援事業では、述べ 5 名が利用し、内 1 名が企業就職後のアフターフォロー期間中であったが、課題の解消を図ることができ退所となった。また、1 名が企業就労に向けた企業内実習に取り組んでいる。残り 2 名については当事業所から就職をした離職者であり、移行事業を再利用し企業就労に向け、課題の改善に取り組み、企業実習等を行ってきたが、就職には至っていない。

この他、平成 28 年度に企業就職したが、就職後に課題が浮き彫りとなり離職となってしまった利用者が利用を再開しており、職場定着に関する十分な支援が行えなかった結果といえる。

就労移行支援事業は今年度で廃止となる。次年度から就職を目指す方については、今年度をもって就労移行支援事業が廃止となるため、就労継続支援 B 型事業にて訓練等を行うこととなり、既存の移行事業の利用者 3 名についても B 型事業の利用となる。そのため、B 型事業においても移行事業同様に、一般企業への就労を希望する利用者への支援の充実や企業内実習に関する支援、さらには、既存就職者のアフターフォローについても継続させ、行うこととなっている。

### 2. 反省事項と課題

平成 29 年度からは B 型事業の利用となるため、下記反省事項については B 型事業にて継続して実施していく。

#### (1) 就職に向けた実践的な実習(施設外支援・就労)について

施設外就労への取り組みは、B 型利用者と共に、複数回実施をすることができたが、施設外支援については、2 企業に 2 名の実施のみとなっており、十分な取組みが行えなかったため、今後就職希望者を中心に施設外支援の実施を図っていききたい。

#### (2) 自分で考え行動できる人材の育成

ひとり 1 人の利用者向き合う時間を増やし、それぞれの課題に対する時間をかけて話し合う機会を設けたことにより、徐々に改善が図れるようになってきたが、話す機会が減ると安定しない行動があったため、安定した行動が行えるよう継続して話し合い等の支援を実施していききたい。

#### (3) 就職後の定期的な企業訪問の実施について

就職者については、定期不定期に関わらず企業訪問を実施してきたが、訪問をしたことにより本人の課題の改善が見られた利用者とは改善が見られずに退職に至った利用者もいたため、雇用の継続が図れるよう支援内容の振り返りや見直し、企業との良好な関係の継続維持に向けた取り組みを行っていききたい。

#### (4) 企業見学やグループ学習会の実施

企業見学や学習会を実施する機会を多く設けることができなかった。継続して就職希望者には課題の改善や就労意欲の向上を図れるよう実施する。

# そ ら

## 1. まとめ

平成 28 年度のそら班は、新規加入者もなく 15 名で作業を行ってきた。15 名の内 1 名は体調不良のため作業への参加が難しく、現員 15 名の大半が加齢による体力の低下が認められるため、繁忙期に備え、前年度から取り組んできたビン、ペットボトルの両作業を利用者ができるようになったことにより、繁忙期並びに利用者の疲労等に対し人員の入れ替えを行うことができ、円滑に作業が遂行できた。また、作業内容が変わることにより利用者の気分転換と作業領域拡大によるやりがいにも繋がった。

一方、他利用者とのトラブルなどの問題から一部の作業制限や配慮が必要な利用者への新たな作業組み立てが必要となっていた為、利用者個々の体調、体力、相性などを考慮しながら試行錯誤を繰り返し行っている。

安全面では、革手袋の中に特殊繊維の薄い手袋の装着を新たに取り入れたことにより、ガラスでの切り傷を心配する事が無くなった。また、支援者が個々の利用者に対し、積極的に作業評価を行ってきたことにより、仕事が「つまらない」「部署を変わりたい」と言っていた利用者のやる気が向上し、さらには、本人から「楽しい」との言葉が出るようになった。このことは職員のやりがい、喜びにも繋がり、継続して利用者の評価を行っていききたい。

平成 29 年度は更なる体力低下が予想される為、繁忙期に備えたアドバイスや作業の組み立てを行い、利用者個々への配慮を怠ることなく支援を行っていききたい。

## 2. 反省事項と課題

- (1) 社会人としての礼儀を身につけていくため、請負先では見本となれるよう、支援者が率先して挨拶を心がけてきた。しかし、支援者から促されないで挨拶ができない利用者が多いため、次年度についても挨拶の大切さを利用者と共に考え、習慣化されるよう取り組んでいきたい。
- (2) 安全面では特殊繊維の手袋を取り入れた事により、手の怪我を防ぐ事ができると思われるが、作業中、支援者が周囲の状況をしっかりと把握した上で、作業提示をできなかったことが反省点としてあげられる。今後、周囲の状況を踏まえ、的確な支援が行えるよう努めていきたい。
- (3) 自閉症の利用者に対しては視覚的に理解ができる作業提示をするなど、個々の障がい特性を考慮した支援を心がけてきたが十分ではなかった。次年度は、より個々の利用者にとって解りやすい支援を行っていききたい。
- (4) 余暇活動では、相性が悪い利用者同士であっても支援者が間に入る事により、一緒にゲームを楽しむ事ができていた。同じ作業を行う仲間として、相互に助け合えるような関係づくりを支援者が仲介し、行っていききたい。また、利用者がとても楽しみにしていた秋のレクリエーションを実施する事ができなかったため、平成 29 年度は再度利用者と職員が共同で企画し、実施していききたい。

# くりんくりん

## 1. まとめ

平成 28 年度のくりんくりん班では、昨年同様に青果の袋詰めと選別等の作業、BDF 廃食用油回収とワックス作業を中心に行い、季節の作業として農耕作業を行ってきた。

青果の袋詰め作業では、自然災害の影響を大きく受けた年となり、近年になく作業量が激減し、当然のことながら大幅な収益の減少となった。農耕作業は野菜の種類を減らし、種蒔、雑草取り、収穫作業と利用者が多く作業に参加することができるように配慮し、利用者・支援者ともに楽しく行うことができたものの、収穫直前に台風により作物の大部分が全滅となり、くりんくりん班にとっては大きな痛手となった。

このような中、廃油回収作業では回収先が増加傾向にあり、また、ワックス作業についても積極的に営業を行ってきたことにより、請負先が増加した。

利用者への支援では、自閉症者に対する構造化を取り入れた支援を検討・協議を繰り返しながら行ってきた。十分な形にまでは至っていないが、支援者の価値観と意識が徐々に変わり、現在は共通の意識の下、統一した支援を展開できるようになった。

平成 29 年度は、3 名の新規利用者が加入し利用者数が 26 名となる。また、3 名の自閉症の利用者が、自閉症支援に特化した生活介護事業の『結』に異動し、より障がい特性に即した支援が行われることになる。高齢化や身体の疾病で体力が低下している利用者については、障がい特性や身体状況に応じた作業を提供し、充実感・達成感が感じられ、楽しく過ごすことができる環境に配慮した支援も行っていきたい。

## 2. 反省事項と課題

- (1) 様々な障がい特性と年齢層が異なる利用者が同じ空間で行う作業をすることにより、利用者個々にストレスを感じさせてしまうことがあったため、作業種によって利用者の配置場所を変えるなど、作業中にストレスを感じないよう工夫を図っていく。
- (2) 利用者の高齢化が進んでいる中、身体への衰えや疾病の進行を見落とす危険性がある。身体状況と情緒面の状態とともに表情、動作の変化について見逃さないよう、日々利用者に接し変化に気づいていきたい。また、支援者同士の情報交換についても欠かさず実施していきたい。
- (3) 定期ワックス清掃において、仕上がり状態に不良状態が多くみられ、単に作業を熟すだけになっており、支援の欠如、そして責任ある作業の遂行という意識が薄れているように思われる。細かな作業指示や仕上がりを見据えた作業配分を行い、請負先や企業からの評価を利用者・支援者共に喜ぶことができるよう傾注していく。
- (4) 工賃保持に近づける事を目的に経費の削減や節約を行ってきたが十分な結果となっておらず、依然節約を図ることができる面があるため、再度確認等を行い、徹底を図っていきたい。

## こむぎ

### 1. まとめ

平成 28 年度は、(株)牧家の請負委託製造と(株)デイリーフーズからの規格外苺の一次加工、自主製品の黄金豚の蒸し豚まんの製造・販売を行ってきた。(株)牧家からの請負委託製造量が減少していたため、価格交渉を行い、単価を上げるに至った。また、以前製造中止になっていたソースが復活し、売り上増になった。規格外苺の一次加工の収益や作業量については、天候に大きく左右され、前年度並みの収益を維持するには至らなかった。

自主製品の蒸し豚まんは、販路拡大に向けて中華博覧会への出品、コープ札幌や地元のイベントなどに参加し、以前より実施してきた伊達観光物産館(道の駅)での実演販売の回数を増やしたことにより、収益増加へと結びついている。蒸し豚まんについては、売り上げが下がることなく年々微増しており、今後も地道に取り組んでいきたい。

平成 29 年度は、(株)牧家の売り上げに頼らなくてもよいように、新商品の開発に取り組みながら自主製品の豚まんの販売増に向けての販路拡大と、利用者が楽しみにしている実演販売の機会をさらに増やし、利用者の満足感や達成感とともに工賃向上に繋げていきたい。

### 2. 反省事項と課題

- (1) 工賃減少に繋がる食品製造や加工に関する製造・出荷ミスがあったため、「やったつもり」を無くし、事前の準備や確認を行っていくこと、また業務全般において指示待ちを減らし利用者自らが準備等を行えるように支援者が共通の意識をもち、支援と製造技術の向上を図っていく。
- (2) 作業支援において統一した支援が行えなかったことがしばしば見られたため、支援者、利用者共に共通認識を図るため、言葉を減らし視覚的に分かるように作業提示の仕方について工夫したことにより、統一された作業の定着が図られつつある。引き続き視覚情報を増やしていき、利用者の作業領域の拡大を図っていきたい。
- (3) 利用者の高齢化に伴い体力が低下し、利用者自身が働くことに対し、不安を感じている様子が多く見られるようになった。体力面に不安を感じている方が好きな作業を続けられるように、個々の身体や情緒面の把握と必要な声掛けや作業環境を整え、「生きがい」や「楽しみ」となるよう、手厚い支援を行っていきたい。
- (4) 自主製品の開発については、試作を行ったものを商品化し販売に繋げることができなかった。次年度も引き続き開発を行い、新商品の販売へと結びつけていきたい。

# 給食提供サービス（ふみだす・第2ふみだす）

## 1. まとめ

平成 28 年度は、各地で自然災害に見舞われ原材料が高騰している中、生鮮野菜、調味料の価格を店舗ごとに見直し、購入先を検討したことで原材料費を 249.9 円で提供することができた。また、利用者の高齢化や重度化に対応するため、本人や支援員と話し合い調理方法の工夫をしてきた。

給食会議は 4 回しか行えず、嗜好調査の実施については計画的に行うことが出来なかったが、毎日の打合せ時に職員から給食について評価をしてもらい、改善へ繋げることができた。

平成 29 年度は、給食を楽しみにしている利用者の皆さんに安全で美味しい給食が提供できるように嗜好調査の結果を参考にし、日々の利用者との会話の中から調理方法の工夫等に取り組んでいきたい。また、自然災害時にスムーズに提供できるように検討し、物品の準備、購入等を進めていきたい。

## 2. 給食提供サービスの実施状況

### (1) 高齢化や重度化への対応

- ①咀嚼機能の低下に応じて献立変更し、肉料理を魚料理にし、ご飯をおかゆで提供
- ②サラダや、付け合せ等で提供する生野菜を、温野菜へ変更
- ③魚は、骨抜き処理済み、骨まで食べる食材を購入
- ④嚥下機能低下の方へは本人の希望を確認しながらとろみを使用して提供
- ⑤水分摂取が苦手な方にはお茶寒天ゼリーを作り提供

### (2) 嗜好調査、残食調査の実施

- ①第 1 回 平成 28 年 8 月 5 日～8 月 9 日
- ②第 2 回 平成 29 年 3 月 14 日～3 月 24 日

両回とも、各班作業室にて口頭での調査を行った。概ね良い評価を得られた。  
人気の献立～カレーライス、から揚げ、とんかつ  
不人気の献立～酢の物、生野菜、魚料理

### (3) 各班の行事に合わせた行事食の提供

レクレーション等、活動内容に応じたお弁当や食材、物品を提供した。

### (4) 給食提供実績数

単位：食

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者	2,309	2,192	2,316	2,426	2,301	2,443	2,385	2,366	2,204	2,078	2,257	2,596	27,873
実習生				17	6	40	41	12	4				120
職員	560	515	606	515	547	544	496	515	535	477	492	553	6,355
ボランティア					8								8
外来者	6	10	9	5	9	24	6	7	6	7	12	7	108
合計	2,875	2,717	2,931	2,963	2,871	3,051	2,928	2,900	2,749	2,562	2,761	3,156	34,464

### (5) 給食原材料費（平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月 年間平均 249 円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
食品購入額	733,810	700,824	758,972	647,725	779,770	663,194	
給食数	2,875	2,717	2,931	2,963	2,871	3,051	
原材料費	255	258	259	218	271	217	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
食品購入額	745,533	760,366	659,982	634,488	751,520	779,138	8,615,322
給食数	2,928	2,900	2,749	2,562	2,761	3,156	34,464
原材料費	254	262	240	247	272	246	249

### 3. 衛生管理について

#### (1) 新鮮で安全な食材の提供

食材の産地や製造場所、製造工程等を納品業者に確認し、冷蔵保存する食材の納品時は中心温度計を使用した。野菜は専用洗剤で洗浄し、肉・魚類は中心温度 85℃以上 1 分の調理をすることで安全に給食を提供できた。温度確認をし、新鮮な食材を提供してきた。

#### (2) 厨房衛生区域内の衛生管理

調理器具は紫外線消毒庫を使用し、食器などは食器消毒庫で消毒を徹底してきた。

#### (3) 給食関係職員の衛生管理並びに健康管理

①専用の白衣等を着用し、健康状態のチェックや手指洗浄を徹底した。

②O - 157・ノロウイルス等の食中毒に対する予防の徹底

毎月 1 回、赤痢菌、サルモネラ菌、O - 157 の項目で検便検査を実施してきた。また、食中毒への対応は次亜塩素酸ナトリウム濃度 200 P P M 以上のもので器具の消毒を徹底してきた。

### 4. 非常災害時対策について

平成 29 年 3 月 24 日（金）に自然災害による停電、断水を想定した訓練を実施した。厨房内の停電対応は発電機により通電し、断水の対応は、ゆったり館の給水タンクよりポリタンクに入れ、飲料水を確保した。

### 5. 給食会議の実施について

平成 28 年 4 月 25 日 5 月予定確認、嗜好調査の結果について

平成 28 年 5 月 31 日 6 月予定確認、今後の給食の内容について

平成 28 年 7 月 29 日 8 月予定確認、第 1 回嗜好調査の実施について

平成 28 年 12 月 26 日 1 月予定確認、第 1 回嗜好調査の結果について

### 6. 給食関係職員の研修について

平成 28 年 11 月 18 日（金）：社会福祉法人北海道社会福祉協議会主催（札幌）  
栄養士専門研修（児童・成人） 田中栄養士

# サポートじゃんぷ

## 1. 総括

平成 28 年 7 月、サポートじゃんぷ一人目のサテライト利用者が誕生した。このサテライトは、希望していた利用者にとっては待ちに待った長年の夢であり、私たち支援者にとっては長年積み残してきた課題であった。年が明けた 1 月には二人目のサテライト利用者が誕生した。現在のところ大きな問題もなく、お二人ともグループホームの支援を受けながら、アパートでの一人暮らしを満喫している。このサテライト方式に対する支援期間は 3 年間であるため、この期間に彼らが将来に向けて何を獲得していかなければならないのかを整理し、支援を行っていく必要があると考えている。

また、平成 29 年 3 月には法人として 10 ヶ所目となるグループホーム「わたぼうし」を開設した。大きな課題である重度重複障がいがある方に対する新たな支援体制の構築と、医的ケアを必要とする方々も利用できる胆振地区初の短期入所の安心・安全な事業運営が、この「わたぼうし」に課せられた大きな使命であると考え、取り組みを開始したばかりである。

サポートじゃんぷに平成 27 年度の後半から看護師が配置された。看護師が配置されたことで、利用者の小さな変化にもすぐ対応できるようになり、病気の発見や予防につながっている。また、医的ケアが必要な利用者に対しても臨機応変に必要な対応ができており、ご本人やご家族のみならず職員にとっても大きな安心感につながっている。

平成 28 年度末から現在、非常に大きな課題となっているのが世話人の確保である。世話人という職種の年齢的なこともあり、親御さんの介護や世話人本人の健康上の問題から退職、休職が相次いだ。昨今は募集してもすぐには確保できない状況にあり、利用者の暮らしの質にも大きな影響を与えるとともに、働く世話人やカバーする職員の負担増につながっており、継続して大きな課題となっている。

## 2. 平成 28 年度重点課題への取り組みと評価

### (1) 重度化・高齢化する利用者一人ひとりのニーズに応じた職員配置の検討

この数年入居された新しい利用者の方々は比較的障がいの重い方が多い。日々の暮らしの中で介助を要する場面が多く、また職員の見守りが常に必要な状況にある。そのため、職員の配置を手厚くしたり日中活動が休みの日は一日通して職員の配置が必要となるなど、これまでの職員配置では対応が難しいホームが増えてきたことから、必要な時間に職員を配置できるよう調整を行うとともに利用者の状況に応じて見直しを行った。

一方、ヘルパーが多くの時間対応してきた利用者の方が、新しいホームでの暮らしに慣れ、他の利用者の影響を受け自分でできることが徐々に増えた結果、ヘルパーの対応時間を減らしても生活できるようになるといった支援体制の変化も見られた。

### (2) 年齢、障がい状況に応じた余暇の充実

週単位で継続して対応してきたのが、トランポリンやフラダンスへの参加である。ウェルネスプラスという事業所が提供して下さっているトランポリンについては、昨年は重心の方を中心に利用させていただいた。トランポリンやハンモックの揺れに体を委ねてリラックスしたり、ブランコを自分のペースでこいで楽しむ姿が見られており、日頃体を動かす機会が少ない重心の方にとっては貴重な時間となった。その他、重心の方々は、伊達市大滝地区にあるわらしべ園が行っている療育乗馬の体験をさせていただいた。

また、果物狩りやコンサート、ミュージカル、大好きな大相撲やプロ野球を間近で観戦するなど、それぞれのニーズに応じて行事の企画を行った。

高齢化した利用者の方の中には、公共交通機関を利用して目的地に向かうことですでに疲れてしまい、コンサートなどを楽しめないという姿も見られてきたことから、ホームから目的地までドアツードアで行けるように企画していく必要性を感じている。

### (3) 職員のスキルアップに向けた OJT の実施

利用者の生活支援に携わる私たち職員にとっての一番の OJT の場面は、朝の打合せである。朝の打合せでは、日々の利用者の暮らし、健康状態、他者との関係で起こる事柄、それに関わる職員自身の価値基準や思いが報告に反映される。その視点について、スーパービジョンを行っている。

平成 28 年度は、それだけではなく自分の思いや経験を言語化する機会を OJT として意識して取り組みたいと考えていたが、計画的ではなく手法も持ち合わせていなかったため十分に組み込むことができず、来年度への継続した課題となっている。

自閉症、特に行動障がいがある方の支援については、支援者間のピアスーパービジョンの実施、研究発表を通じた支援の振り返りや今後の課題に向けた取り組みなどを行ってきた。自閉症がある方に対する支

援は、その特性に対する基本的な理解と実践の両輪が必要であることから、研修会に参加する機会があれば職員を派遣するなど Off-JT と併せて取り組んだ。

#### (4) サテライト方式利用者への支援の実施

平成 28 年 7 月にサテライト方式利用者一人目が、平成 29 年 1 月に二人目が誕生した。それまで住んでいたグループホームで食事を取ったり、世話人に話を聞いてもらったりしながら、アパートで新たな生活を送っている。アパートでの生活は、いろんな順番を待たなくても自分のペースで過ごせるのがいい、他利用者との煩わしさが無いなどの理由から「もうグループホームには戻りたくない」とそれぞれの暮らしを楽しんでいる。

アパートに入居してからは定期的に職員が訪問し、暮らしぶりを把握しながら困っていることはないか、本人が気づかずについて困っていることはないかなど本人と確認しつつ支援を行っている。

今後は 3 年後の支援終了を見越して、どんな支援が必要なのか具体的に進めていく必要がある。

### 3. 利用者の推移

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
現員	51	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	53	53
入居												3	3
退居		1											1

※退居理由 精神状態が落ち着き、ご本人が自宅へ帰ることを強く希望したため。

### 4. 利用者の年齢（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年齢	20～29	30～39	40～49	50～54	55～59	60～64	65～70	合計
男	5	8	7	4	2	5	1	31
女	7	3	3	1	3	3	1	21
合計	12	11	10	5	5	8	2	53
%	22.6	20.8	18.9	9.4	9.4	15.1	3.8	100

### 5. 避難訓練実施状況

ホーム名	火災避難訓練	自然災害避難訓練
水野ホーム	4月9日、10月23日	10月2日（日） サポートじゃんぷ全体で地震、津波を想定した訓練を実施。 10月17日（月） ふみだす、第2ふみだすと合同で地震、津波を想定した訓練を実施。
きずな	5月11日、10月19日	
すずらん	4月20日、10月8日	
くるみ	4月28日、11月6日	
野ぶどう	8月、12月、2月を除いて毎月第4水曜日に実施	
野いちご	4月26日、11月6日	
かりんず	5月26日、11月25日	
みんと	4月13日、10月14日	
麦わらぼうし	8月19日、10月21日	

### 6. 健康診断

利用者の健康診断については、ふみだす・第2ふみだす及び伊達市手をつなぐ育成会に通所している方は、それぞれの日中活動事業所で健康診断を受けることができおり、企業就労している利用者については、別途年1回健康診断を医療機関において受けている。

そのほか、50歳以上の利用者を対象に大川原病院（室蘭市）で脳ドックを受けており、医師の指示により継続して1年に1度脳ドックを受けている利用者もいる。このため、もし万が一認知症の疑いなど変化の兆しが見られたときに医学的に比較ができることにつながるのではないかと考えている。

また、市町村が実施するがん検診や肝炎検診などの機会を利用し健診を受けた他、伊達赤十字病院健診センターの協力を得て40歳以上の利用者を中心に腫瘍マーカーによる検査を行った。

歯科についても、平成28年度は歯科衛生士に来ていただき、利用者全員の歯の状況を見ていただくとともにブラッシング指導を受けた。

職員については、夜勤に入る職員については年2回、その他の職員は年1回健診を受けている。また、介助業務にあたる世話人については腰痛検査を合わせて行った。

## 7. 職員研修等

毎月行われる世話人会議において、その時々に必要なテーマの研修を行った。その他、強度行動障害支援者養成研修をはじめ、高齢化や障がい者虐待防止、重度重複障がいなどのテーマに合わせて参加した。

### (1) 内部研修

月 日	研修名等	主催	場所	参加者
H28. 4. 18	調理実習・講義 「ロコモティブシンドロームについて」	サポート じゃんぷ	伊達市保健センター	ワーカー 世話人
H28. 5. 11	小規模社会福祉施設における火災時の避難訓練等の方法	同上	伊達市社会福祉協議会	同上
H28. 6. 15	口腔ケアの基本 ～歯科衛生師による講演～	同上	同上	同上
H28. 7. 13	食中毒及び熱中症について	同上	同上	同上
H28. 9. 14	ホームの防災体制について	同上	同上	同上
H28. 10. 19	インフルエンザ及びノロウイルスについて	同上	同上	同上
H28. 11. 16	グループホームでの暮らしを支えるにあたって	同上	同上	同上
H28. 12. 21	加齢化支援研修会の研修報告	同上	同上	同上
H29. 1. 17	調理実習・講義 「目指そう たっぷり野菜とちょっぴり塩分」	同上	伊達市保健センター	同上
H29. 2. 10	摂食と嚥下に関する研修会 ～ST による講演～	同上	伊達市社会福祉協議会	同上
H29. 3. 8	防災研修 3. 11 から学ぶ	同上	同上	同上

### (2) 外部研修

月 日	研修名等	主催	場所	参加者
H28. 6. 8～9	北海道強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	社会福祉法人侑愛会	北斗市	清野
H28. 6. 22～23	北海道強度行動障害支援者養成研修 (実践)	社会福祉法人はるにれの里	札幌市	佐藤
H28. 7. 4～7	重症心身障害看護師教育課程研修	医療福祉センター札幌あゆみの園	札幌市	平松
H28. 7. 21～22	平成 28 年度全国グループホーム等 研修会九州地区大会	日本知的障がい者福祉協会	福岡市	栗野
H28. 7. 26	平成 28 年度権利擁護セミナー	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	清野
H28. 7. 25～27	平成 28 年度障がい者虐待防止・権利 擁護指導者養成講座	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	栗野
H28. 7. 27	働き方とメンタルヘルス	北海道中小企業同友会西胆振地区	登別市	栗野
H28. 8. 11	平成 28 年度胆振圏域相談業務等従 事者講座～障害福祉基礎講座	胆振圏域障がい者総合相談支援センター るびなす	苫小牧市	吉田
H28. 8. 24～25	北海道強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	社会福祉法人はるにれの里	札幌市	吉田



月 日	研修名等	主催	場所	参加者
H28. 10. 7～8	北海道強度行動障害支援者養成研修 (実践)	社会福祉法人はるにれの里	札幌市	吉田
H28. 11. 14～17	重症心身障害看護師教育課程研修	医療福祉センターあゆみの園	札幌市	平松
H28. 11. 25	平成 28 年度 胆振圏域相談業務等従事者講座	胆振圏域障がい者総合相談支援センター るびなす	伊達市	吉田
H28. 11. 30	加齢化支援研修会	北海道知的障がい福祉協会	札幌市	清野・平松
H29. 2. 2	権利擁護セミナーⅡ	社会福祉法人やまと郭公の里	伊達市	佐藤・清野 吉田
H29. 3. 1～2	北海道強度行動障害支援者養成研修 (基礎)	社会福祉法人はるにれの里	札幌市	伊藤
H29. 3. 2～3	北海道強度行動障害支援者養成研修 (実践)	社会福祉法人侑愛会他	旭川市	清野

# サポートハンズころころ

## 1. 総括

サポートハンズころころは、自宅やグループホームにヘルパーを派遣し、利用者の障がいの実態に応じ、居宅介護・重度訪問介護、行動援護の3種別のサービスの提供を行ってきた。常に自立支援を目標に利用者の意思及び人格を尊重し、その人の立場に立った適切な支援を心掛けてきたが、マンパワーの確保が難しく、十分にニーズに応えられないところもあった。ここに平成28年度の事業計画を振り返り、今後の事業運営に生かしていきたい。

## 2. 平成28年度重点課題への取り組みと評価

### (1) 利用者の身体状況(障害の特性や障がい程度等)を把握して、安全で安楽なサービスの提供に心掛ける

大半の利用者が重度の障がい者であり、言葉でのコミュニケーションが難しく、顔の表情や身振りや素振り等で体調の変化等を把握しながら支援に当たってきた。しかし、突然てんかん発作を起こす利用者や、行動がなかなか予知できない自閉症の利用者に対しては、ヒヤリとする場面も多々あったが、サービス中は大きな怪我もなく支援することが出来た。生活援助サービスに関しては物損事故は1件も起きていない。

### (2) 利用者の年齢層に即した支援を行う

利用者の年齢が10代～60代と年齢の幅があり、その年代に即したサービスの提供に心掛けてきた。特に児童に対しては、支給されているサービスだけでは賅い切れるものではなく、生活習慣を身に付けるための支援や、登校拒否をさせないための支援など、療育的な要素を織り込んだサービスの提供をしてきた。

### (3) 自宅やグループホームを訪問して支援にあたるために信頼関係を構築する

生活援助サービスは買い物など、現金を取り扱う依頼を受けることもあることから、レシートや釣銭などの取り扱いを慎重に行ってきた。

身体介護サービスにおいては、不快感を与えないように十分注意した。特に羞恥心を取り除くためにはどのような配慮が必要か個々のケースを熟知し、心地よいサービスの提供に努めたことで信頼関係を構築することができた。

### (4) 良質なマンパワーの確保と人材育成のために研修を強化する

内外含めて年に十数回の研修に参加するとともに、勉強会や研究発表会を例年通り行い介護技術や知識を高めてきた。平成30年から行動援護のサービスに携わる者の経過的措置が解かれてしまうため、特に強度行動障害支援者研修や行動援護支援者養成研修は積極的に申し込み、2名が受講することができた。

## 3. 利用者の状況(平成29年3月31日現在)

### (1) 性別

単位：人

	男	女	計
在宅	4(含児童1)	9(含児童1)	13
グループホーム	6	6	12
計	10	15	25

### (2) 年齢

単位：人

年齢	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	計
在宅		2	2	2	3	1	2		12
グループホーム			6	6	1				13
計	0	2	8	8	4	1	2	0	25

### (3) サービスの種別(サービスの重複利用を含む)

単位：人

	身体	生活援助	通院身体	行動援護	重度訪問	計
在宅	6	7	1	2	1	17
グループホーム	4		1	3	9	17
計	10	7	2	5	10	34

#### 4. サービス提供実績

単位：時間

	身体介護	生活援助	通院身体	行動援護	重度訪問	合計
4月	639.50	96.50	2.00	50.00	2,200.00	2,988.00
5月	620.50	96.00	2.00	38.50	2,066.50	2,823.50
6月	657.50	107.50	2.50	44.50	2,018.00	2,830.00
7月	670.50	112.50	2.00	68.50	2,106.50	2,960.00
8月	670.00	111.25	2.00	43.50	1,967.00	2,793.75
9月	649.00	101.50	4.50	38.00	2,008.00	2,801.00
10月	680.50	109.00	1.00	38.50	2,010.00	2,839.00
11月	660.50	112.50	10.50	50.00	1,910.50	2,744.00
12月	482.33	107.50	8.00	27.00	1,797.00	2,421.83
1月	688.50	107.50	5.00	39.00	1,756.00	2,596.00
2月	628.50	107.25	2.00	32.00	1,873.50	2,643.25
3月	701.50	113.50	3.50	29.00	2,069.50	2,917.00
H28年度計	7,748.83	1,282.50	45.00	498.50	23,782.50	33,357.33
H27年度計	8,144.50	1,831.00	47.00	548.00	25,631.50	36,202.00
H27年度との差額	△395.67	△548.50	△2.00	△49.50	△1,849.00	△2,844.67

上記の表の通り平成 28 年度は、サービス提供の総合計が 33,357.33 時間であり、平成 27 年度より 2,844.67 時間減少している。行動援護は大幅な変化はない。身体介護は 548.50 時間減少しているが、長期の入院者が数名でたことが要因である。また、重度訪問介護が 1,849 時間と大幅に減少したのは、ヘルパーの人材確保が出来なかった事もあるが、平成 30 年の報酬改定を見据えて、グループホームでのヘルパーによるマンツーマンのサービスを削減した支援の在り方を試みてきたことが要因である。

#### 5. 健康診断

夜勤業務を行っている常勤ヘルパーは年 2 回の健康診断及び年に 1 回の腰痛検査、また登録ヘルパー（業務委託者）に関しても年に 1 回の健康診断を施行し、職員の健康管理を徹底した。

#### 6. 職員研修

サービスを利用する方々の自立を目指し生活の質を高めるサービスの提供をするため、従事者の教育及び研修を重視し、常に提供するサービスの質の向上に努める事を目的に研修を実施した。介護の知識や技術は勿論のこと、平成 28 年度は重い障がいのある方の権利擁護を中心に研修を行い、利用者の方々から信頼されるマンパワーの育成に努めた。

月 日	研修内容	主催	場所	参加者
H28. 4. 12	福祉の動向と事業所が抱える課題	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉協議会	常勤・非常勤・ 業務委託ヘルパー
H28. 5. 11	平成 30 年に向けての福祉の動向等について	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉協議会	同上
H28. 7. 26	権利擁護セミナー	北海道知的障がい 福祉協会	札幌市	畠山 隆子 橋本 一樹 成田 泰枝
H28. 8. 10	「自閉症スペクトラムの理解と支援」ビデオ鑑賞～特性を理解し受け止める支援～	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉協議会	常勤・非常勤・ 業務委託ヘルパー
H28. 8. 24～ 25	北海道強度行動障がい支援者養成研修	はるにれの里	札幌市	成田
H28. 9. 14～ 15	防火管理講習	一般財団法人日本 防火・防災協会	伊達市消防防 災センター	小早川・片山

月 日	研修内容	主催	場所	参加者
H28. 9. 14	勉強会の発表 ～重度障害の K さんが笑顔あふれる生活を構築する為の支援～	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉 協議会	常勤・非常勤・ 業務委託ヘルパー
H28. 9. 24～ 25	北海道行動援護従事者養成研修	特定非営利法人 北海道地域ケアマ ネージメントネッ トワーク	札幌市	小早川
H28. 10. 7～ 8	北海道強度行動障がい支援者養成研修	はるにれの里	札幌市	成田
H28. 10. 12	(伝達研修) 強度行動障害の理解と対応につ いて	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉協 議会	常勤・非常勤・ 業務委託ヘルパー
H28. 10. 15 ～16	北海道行動援護従事者養成研修	特定非営利法人 北海道地域ケアマ ネージメントネッ トワーク	札幌市	小早川
H28. 10. 22 ～23	先進施設視察研修 古平共同の家・愛和の里きもべつ	サポートハンズ ころころ	古平町 喜茂別町	常勤ヘルパー
H28. 11. 9	伝達研修 行動障がいの理解と対応につ いて	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉 協議会	常勤・非常勤・ 業務委託ヘルパー
H28. 12. 2	権利擁護セミナー 「アンガーマネジメント」	社会福祉法人 豊浦豊和会	伊達市カルチャ ーセンター	同上
H29. 1. 11	総合支援法について	サポートハンズ ころころ	伊達市社会福祉 協議会	同上
H29. 2. 2	権利擁護セミナーⅡ	社会福祉法人 豊浦豊和会	伊達市カルチャ ーセンター	同上
H29. 2. 10	「若者・働く世代の生活習慣病の予防」 講義と調理実習	食改善推進委員会	伊達市保健セン ター	同上
H29. 2. 28～ 3. 5	(社福) 侑愛会への職員研修	(社福) 侑愛会	北斗市	足利
新人研修	・新人 3 名に対して利用者個々の介助の特性や介助方法はサービス提供責任者が 中心に 2 週間程度同行し指導。 ・法人、居宅介護事業所の歴史、理念。福祉を生業とするものの接遇マナー等を 2～3 日間講義 ※いずれもレポート提出			空元・近江・谷田

# どんぐりころころ

## 1. 総括

どんぐりころころは、利用者や保護者の方から夢や希望を聴かせて頂き、「こうありたい」との思いを自己実現出来るようなサービス等利用計画の作成に心がけ、それぞれの実施機関から依頼されたサービス等利用計画を作成してきた。しかし、その月によっては期日に追われ、利用者の方々が本来もっている生きる力がわき出るようなエンパワメントを重視した計画を作成することが出来たのかを考えると十分でなかった面もあり、平成 29 年度は利用者や保護者の声を十分に傾聴し、豊かな暮らしの実現のお手伝いができればと考えている。

## 2. 月別計画・モニタリング作成件数（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計 画	3	6	9	3	4	4	4	2	2	3	3	20	63
モニタリグ	8	9	9	3	8	18	7	8	5	5	8	18	106
合 計	11	15	18	6	12	22	11	10	7	8	11	38	169

## 3. 年齢構成（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：人

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70 以上	合計
男性	7	19	10	9	8	5	0	58
女性	0	11	5	6	4	5	0	31
合計	7	30	15	15	12	10	0	89

## 4. 支援区分（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：人

区分	無し	1	2	3	4	5	6	合計
男性	14	0	4	12	13	6	9	58
女性	5	0	1	2	7	7	9	31
合計	19	0	5	14	20	13	18	89

※支援区分を必要としない障がい福祉サービスがある。

（例：生活介護を除いた通所サービスのみ利用している方の場合）

## 5. 障がい福祉サービス利用状況（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：件数

	グループホーム	ホームヘルプ	通 所	入所施設	ショートステイ	その他	合計
男性	31	10	44	0	12	0	97
女性	21	11	28	0	3	0	63
合計	52	21	72	0	15	0	160

※障害福祉サービスを重複し利用しているケースがある。

## 6. 計画依頼市町村（平成 29 年 3 月 31 日現在）

単位：人

	伊達市	室蘭市	登別市	豊浦町	壮瞥町	洞爺湖町	その他	合計
男性	40	2	3	1	1	2	9	58
女性	27	2	0	0	0	1	1	31
合計	67	4	3	1	1	3	10	89

# 福祉有償運送

## 1. 総括

今年度はキャラバン、ハイエースコミューター、ミニキャブ、ノアの4台で福祉有償運送サービスを行ってきた。件数としては19件であり、長期休暇の帰省の送迎や、室蘭方面への通院の送迎が主となっている。

使用できる車両や運転手に制約があることから、状況によっては希望があっても福祉有償運送サービスとしてご利用いただけない事もあったが、そういう場合でも利用者やご家族が困ることがないように、グループホームの職員が札幌等の長距離も含め送迎を行っている。今後も総務の職員と連携しつつ、野ぶどうの利用者を中心に安全なサービスを提供していきたい。

## 2. 利用状況

単位：件

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数	1	3	2	0	6	1	3	0	2	1	0	0	19
行先	千歳	富川 室蘭	室蘭		富川 室蘭	室蘭	室蘭		室蘭	富川			

# 在宅高齢者・障がい者入浴支援

## 1. 総括

平成28年度、在宅高齢者・障がい者入浴支援事業では4月から7月までの4か月間、市民の利用者がほとんど無い状態であったが、7月に行われたふれあい広場では「だて湯ったり館」のPRとしてパンフレットを配り入浴設備や利用方法について市民に宣伝することができた。その成果もあり8月からは6名の方が定期的に利用をされていた。今年度は送迎や入浴介助のサービスを直接伝えてくる利用者はいなかったが、今後は増加するものと思われる。また、第2ふみだすの利用者にも入浴困難者が徐々に増え、平成29年度は第2ふみだすの利用者も湯ったり館を利用し入浴サービスを開始すると思われる。社会福祉法人の社会貢献活動が義務化され、地域が必要とするサービスの創造及び支援を行い、地域の社会資源として役割を果たせることとなり、計画的に地域市民がより利用しやすい事業になるように実施していきたいと考えている。

## 2. 利用状況

単位：人

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
在宅者入浴支援事業	1	0	0	0	3	10	4	5	10	6	9	11	59
日中一時支援事業	0	0	0	0	2	9	4	3	3	2	2	2	27
合計	1	0	0	0	5	19	8	8	13	8	11	13	86

## 3. 入浴利用者の利用理由

単位：人

	自宅での入浴困難	ホームでの入浴困難	お楽しみ入浴	合計
地域高齢者・障がい者	2	0	1	3
利用者・日中一時支援	2	0	1	3
合計	4	0	2	6

## 4. 利用者の年齢

単位：人

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	1	1	0	0	0	1	1	0	4
女性	1	0	0	0	0	0	1	0	2
合計	2	1	0	0	0	1	2	0	6

# 所持金管理

## 1. 平成 28 年度所持金管理状況

グループホーム現員 53 名のところ、成年後見人管理となっている利用者が 1 名いるため所持金管理を行っているグループホーム利用者数は 52 名となっている。そのほか、諸事情から利用者の母親の所持金管理をおこなっていることから、全体としては 53 名となる。

- (1) 年金管理委任者数 51 名(家族管理(障害厚生年金)1 名・成年後見人管理 1 名)  
(2) 預金管理委任者数 53 名

## 2. 預金残高

平成 29 年 3 月 31 日現在 (53 名分)	352, 881, 563 円
(1) 普通預金	49, 014, 563 円 (105 口)
(2) 定期預金	303, 867, 000 円 (264 口)
※平成 28 年 3 月 31 日残高(50 名分)	349, 014, 682 円 (増 3, 866, 881 円)

## 3. 金融機関別預金残高：平成 29 年 3 月 31 日現在(53 名分)

(1) 伊達信用金庫本店	191, 540, 668 円	(普通 58 口 定期 166 口 計 224 口)
(2) 北海道銀行伊達支店	11, 269, 242 円	(普通 5 口 定期 1 口 計 6 口)
(3) 北洋銀行伊達支店	15, 952, 879 円	(普通 3 口 定期 1 口 計 4 口)
(4) 株式会社ゆうちょ銀行	134, 111, 090 円	(普通 38 口 定期 96 口 計 134 口)
(5) 伊達農業協同組合	7, 684 円	(普通 1 口 定期 0 口 計 1 口)
合計	352, 881, 563 円	(普通 105 口 定期 264 口 計 369 口)

## 4. 障害年金等管理状況：平成 29 年 3 月 31 日現在

- (1) 障害者基礎年金 1 級 (2 ヶ月 162, 520 円) 28 名  
(2) 障害者基礎年金 2 級 (2 ヶ月 130, 016 円) 23 名  
(※内 3 名は扶養共済年金受給者)  
(※内 1 名は老齢厚生年金受給者)